

2021年3月期
第2四半期 決算説明資料
(2020年4月～2020年9月)

アサヒホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

經營成績

AW 2020年度上期決算のポイント

経営成績

2020年度上期 決算実績	営業利益 118億円（前年同期比+49億円） ※ 上期業績予想108億円から 10億円のプラス
------------------	---

経営施策・トピックス

新型コロナによる影響	貴金属、環境保全とも期初の想定と比較して影響は軽微 ※ 貴金属：外出自粛により消費活動は縮小/国内自動車産業は低迷/巣ごもり需要に伴うパソコン・ゲーム機の製造関連からの回収量は好調/北米の製品加工・販売や金融取引は好調 ※ 環境保全：工業生産は総じて低迷/パソコン・ゲーム関連の半導体産業や消毒薬関連の化学産業からの排出は好調
株主還元 ※配当性向50%以上目途 ※安定的な配当を実施	年間160円 ※ 前年度から年間30円の増配
会計方針の変更 ※2020年度決算より	北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更 ※ 2019年度まで「金融費用」→2020年度より「売上原価」 ※ 経年比較の対象となる前年同期の数値も会計方針変更を反映
北九州焼却炉の更新	アサヒプリテック北九州事業所の焼却炉更新 ※ 廃熱利用によるサーマルサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献

2

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度上期は前年同期比で増収増益となりました。
- 新型コロナによる影響は、貴金属事業セグメント、環境保全事業セグメントとも、期初の想定と比較すると影響は軽微でした。スライド3で詳細に解説しています。
- 2020年度の年間配当は2019年度実績から30円増配の年間160円を予定しています。
- アサヒプリテック北九州事業所において焼却炉を更新しました。スライド16に新施設の写真を掲載しています。新焼却炉の1日あたりの処理能力は90トンです。廃棄物焼却時に発生する廃熱を利用した発電設備を導入し、サーキュラーエコノミーの推進に貢献しています。
- 今年度から北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更しました。2019年度までは金融費用としていましたが、2020年度より売上原価としています。これに伴い、経年比較の対象となる2019年度の業績についても会計方針変更を遡及反映した数値に変更しています。

AW 新型コロナによる影響

■ 貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、外出自粛に伴う消費活動の縮小や国内自動車産業の低迷などの影響を受けたが、巣ごもり需要に伴うパソコン・ゲーム機等の製造関連からの回収量が好調。

分野	当社事業への影響等
デンタル	外出自粛に伴い患者数が減少し、回収量が減少
宝飾	製造や流通等は縮小したが、他の流通・買取業者の業務停滞やリユースの低調に伴い新規回収量が増加
触媒	国内は自動車の買い控え等により回収量が減少したが、アジア地域の自動車触媒からの回収量が好調
エレクトロニクス分野	車載関連が減少したが、パソコンやゲーム機、スマホ等の製造関連の回収量が好調
北米精錬	製品加工・販売や金融取引が増加

■ 環境保全事業

工業生産は総じて低迷したが、パソコン・ゲーム関連の半導体産業や消毒薬関連の化学産業からの回収量が好調。

業界	当社事業への影響等
教育・研究機関	大学や公的機関の活動は停滞したが、廃試薬の一扫処理などにより回収量を確保
建設	住宅関連の生産や新築需要の低調により、汚泥、木くず、ガラスなどの回収量が減少
自動車	新車販売台数の減少により、車載機向け半導体工場からの廃液の回収量が減少
食品	外食産業の不振により、飲食店からの残渣物やガラスびんの回収量が減少
電子機器	パソコン・ゲーム等関連の半導体製造にかかる回収量が増加
化学	消毒薬関連からの回収量が好調

3

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 新型コロナウイルスによる当社事業への影響は分野や業界ごとに違いがありました。
- デンタル分野は緊急事態宣言に伴う外出自粛や三密回避の影響によって診療機会が減ったため、前年同期比で回収量は減少しました。
- 宝飾分野は流通業者や買取店舗などが営業縮小する中、当社社員が直接集荷に伺ったことなどで新規顧客を獲得することができ、前年同期比で回収量は増加しました。また、リユース市場が縮小し、リサイクル市場が相対的に膨らんだことも回収量の増加につながりました。
- 触媒分野は国内の自動車の買い控えにより自動車解体業者からの回収量は減りましたが、退職物が多く排出され、前年同期比で回収量はほぼ横ばいでした。また、中国などアジア地域向けの触媒の供給は順調であったため、触媒生産からの回収量は好調でした。
- 電子分野は車載関連需要が減少した一方、外出自粛に伴う巣ごもり需要によってパソコン・ゲーム機・スマホに使用される電子デバイスの生産が活況で、前年同期比で回収量は増加しました。
- 北米精錬分野は、コロナの影響により公共輸送網が乱れ原材料入荷は一時停滞しましたが、上期後半にはほぼ計画通りの水準に回復しました。またコインや小型バーといった製品の加工・販売が好調で、さらに前渡しやトレーディング等の金融取引も拡大しました。
- 環境保全事業は、企業活動の自粛などの影響を受けて工業生産が低迷し、産業廃棄物の発生量は減少しましたが、パソコン・ゲーム機等関連の半導体分野や消毒液関連の化学分野からの排出は好調でした。
- なお、当社ではより安心・安全に当社グループのサービスをご利用いただくことを目的として、お客様と接点のある400名を超える従業員に対しコロナ抗体検査を実施致しました。今後もお客様の安全・安心と従業員の健康のため同様の抗体検査を定期的の実施予定です。

AW 連結業績

上期実績：貴金属事業が好調で連結業績を牽引→大幅な増収増益

通期予想：貴金属事業を中心に業績は堅調に推移する見込み

4期連続での過去最高益更新となる見込み

(単位：億円)

	2019 上期	2020 上期		2020 通期 (予想)		
	実績※1	実績	増減	予想	前年度	増減
売上収益	610	791	181	1,650	1,356	294
営業利益	69	118	49	210	180	30
営業利益率	11.4%	14.9%	3.6%	12.7%	13.3%	△0.6%
税引前利益	67	119	51	208	177	31
当期利益※2	45	82	37	140	98	42
設備投資	14	29	14			
減価償却費	14	12	△2			

※1 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。これに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

※2 親会社の所有者に帰属する当期利益。

4

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度上期は、貴金属事業が好調で連結業績を牽引し、前年同期との比較で大幅な増収増益となりました。
- 営業利益は前年同期と比較して49億円増加の118億円となりました。2020年度通期の業績は営業利益210億円を予想しており、4期連続での過去最高益更新となる見込みです。
- 南北アメリカ大陸やヨーロッパなどにおける新型コロナウイルス感染の再拡大の状況に鑑み、経済への影響が不透明であることから、2020年度通期の業績予想は据え置いています。

AW 連結業績（事業セグメント別）

上期実績：貴金属事業 大幅増収増益

環境保全事業 産廃処理量減により減収減益

通期予想：貴金属事業 業績は引き続き堅調に推移する見込み

環境保全事業 徐々に回復に向うが前期比では減益の見込み

〔単位：億円〕

		2019	2020		2020		
		上期	上期		通期（予想）		
		実績※	実績	増減	予想	前年度	増減
貴金属	売上収益	499	700	201	1,433	1,138	295
	営業利益	62	114	52	199	159	40
	利益率	12.3%	16.2%	3.9%	13.9%	14.0%	△0.1%
環境保全	売上収益	100	91	△9	217	207	10
	営業利益	18	17	△1	40	44	△4
	利益率	18.2%	18.7%	0.5%	18.4%	21.0%	△2.6%
連結	売上収益	610	791	181	1,650	1,356	294
	営業利益	69	118	49	210	180	30
	利益率	11.4%	14.9%	3.6%	12.7%	13.3%	△0.6%

※ 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

5

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

【上期実績】

- 事業セグメント別では、貴金属事業セグメントは大幅な増収増益となりましたが、環境保全事業セグメントは減収減益となりました。
- 貴金属事業セグメントは、国内・アジアの貴金属リサイクル事業分野、北米の精錬事業分野とも業績は好調で、大幅な増収増益となりました。
- 環境保全事業セグメントは、工業活動の低迷により産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益となりました。

【通期業績予想】

- 貴金属事業セグメントは、下期も業績は堅調に推移する見込みであり、通期の業績予想は前年度との比較では増収増益となる見込みです。
- 環境保全事業セグメントは復調しつつあり、通期の業績予想は前年度との比較では増収を見込んでいますが、現時点では減益となる見込みです。

AW 貴金属事業セグメント

貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）：

- 上期実績：貴金属回収量の増加と貴金属価格上昇により、増収増益
- 通期予想：引き続き堅調に推移する見込み

北米精錬事業分野：

- 上期実績：原料入荷量は前期比で減少したが、製品加工・販売や金融取引は好調で増収増益
- 通期予想：引き続き堅調に推移する見込み

〔単位：億円〕

貴金属	2019 上期	2020 上期		2020 通期（予想）		
	実績※	実績	増減	予想	前年度	増減
売上収益	499	700	201	1,433	1,138	295
営業利益	62	114	52	199	159	40
利益率	12.3%	16.2%	3.9%	13.9%	14.0%	△0.1%

※ 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

6

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

【貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）】

- 国内およびアジアの貴金属リサイクル事業分野における貴金属回収量は、パラジウムは僅かに減少しましたが、金をはじめとする他の主要貴金属の回収量は増加しました。また、貴金属価格は、主力の金、パラジウムの価格が大幅に上昇しました。その結果、2020年度上期は前年同期と比較して大幅な増収増益となりました。
- 下期も業績は引き続き堅調に推移する見込みです。

【北米精錬事業分野】

- 北米精錬事業分野の原料入荷量は、金については前年同期と比較して横ばいとなりましたが、銀は減少しました。一方、コインや小型バーなどの製品加工・販売、前渡しやトレーディングといった金融取引は前年同期と比較して大幅に増加しました。その結果、2020年度上期は前年同期と比較して大幅な増収増益となりました。
- 下期も業績は引き続き堅調に推移する見込みです。



参考：貴金属回収量及び貴金属価格の推移

【貴金属リサイクル 回収量】

〔単位：kg〕

	2019年度	2020年度	
	上期実績	上期実績	増減
金	8,239	9,065	826
パラジウム	3,452	3,384	△68
銀	34,818	35,270	451
プラチナ	1,946	2,098	152

【貴金属価格（1gあたり）】

〔単位：円〕

	2019年度	2020年度	
	上期 期中平均価格	上期 期中平均価格	差異
金	4,884	6,249	1,366
パラジウム	5,145	7,185	2,040
銀	57.1	71.3	14.2
プラチナ	3,104	3,000	△104

7

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 貴金属リサイクル事業分野における回収量と貴金属価格の推移です。
- 2020年度上期の回収量は、パラジウムは僅かに減少しましたが、金、銀、プラチナは増加しました。
- 2020年度上期の貴金属価格は、金、パラジウム、銀の価格が上昇しました。特に金とパラジウムの価格は前年同期と比較して大幅に上昇しました。

AW 環境保全事業セグメント

上期実績：

- 自動車産業をはじめとした工業活動の低迷により、産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益

通期予想：

- 工業活動の再開により徐々に回復に向うものの、前期比では減益となる見込み

(単位：億円)

環境保全	2019 上期	2020 上期		2020 通期 (予想)		
	実績	実績	増減	予想	前年度	増減
売上収益	100	91	△9	217	207	10
営業利益	18	17	△1	40	44	△4
利益率	18.2%	18.7%	0.5%	18.4%	21.0%	△2.6%

8

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 環境保全事業セグメントの2020年度上期の実績は、自動車産業をはじめとした工業活動の低迷が厳しく、産業廃棄物処理量が減少したため、減収減益となりました。
- 下期は、工業活動の再開に伴い、産業廃棄物処理量は徐々に回復する見込みです。また、昨年度から継続している処理単価の値上げ効果もあり業績は回復傾向にあります。その結果、前年度との比較では増収を見込んでいますが、減価償却増などの影響により僅かに減益となる見込みです。

AW 財政状態

(単位：億円)

	2020年 3月末	2020年 9月末	増減	備考
流動資産	1,876	1,934	+58	
営業債権	1,198	1,331	+134	営業債権残高の約9割および増減額の大部分は 北米事業のメタル調達のための借入金見合いの債権 。(詳細は「社債及び借入金」の備考を御参照)
棚卸資産	377	475	+97	棚卸資産残高および増減額のほぼ全てが貴金属リサイクル事業における 貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的 。
その他	301	128	△173	
非流動資産	424	447	+23	
資産計	2,300	2,381	+82	
負債	1,608	1,650	+43	
社債及び借入金	1,268	1,186	△82	借入金残高の約9割は 北米事業におけるメタル調達のための借入金 。原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的 。
その他	340	464	+124	
資本	692	731	+39	
資本・負債計	2,300	2,381	+82	

9

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年9月末の総資産は、2020年3月末と比較して82億円増加の2,381億円となりました。資産では営業債権と棚卸資産が増加しました。
- 社債および借入金残高の約9割は北米精錬事業におけるメタル調達のための借入金です。また、営業債権残高の約9割および増減額の大部分は借入金見合いの債権です。
- 北米事業では、金融取引を収益の柱のひとつとしており、積極的に推進しています。金融取引の代表的な例は、スライド15にある「前渡し取引」です。鉱山顧客から受け取った精錬原料を製品化するまでに通常一週間程度を要しますが、顧客によっては、製品化前に製品の返却を希望することがあります。その場合、当社は銀行借入を行った資金により貴金属を購入して前渡し返却します。その対価として、前渡し日数に応じた金利を請求します。
- 前渡しに際しては、入荷原料の貴金属含有量を分析し、その範囲内で前渡しを行っています。したがって、実質的な貸倒リスクはありません。また、借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスクも回避しています。
- 当社グループの棚卸資産残高および増減のほぼ全ては貴金属リサイクル事業の原料、仕掛品、製品です。これらも回収と同時に貴金属含有量の分析を行っています。また、貴金属価格の変動については、先物市場でヘッジしており、価格変動リスクはありません。また、棚卸資産が貴金属あるいは貴金属含有物ですので、品質が劣化するリスクはなく、製品化すれば市場で現金化することが可能です。
- 借入金や見合いの債権や棚卸資産により、バランスシートの資産・負債の残高は大きく見えますが、実際にはリスクの低い資産・負債がその多くを占めています。

AW キャッシュフロー

(単位：億円)

	2020年度 上期	備考
営業CF	△36	
棚卸資産の 増減	△97	増減額の内、△96億円が貴金属リサイクル事業における 貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品の増加 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的 。
営業債権他の 増減	△100	増減額の内、△109億円は北米事業のメタル調達のための 借入金見合いの債権の増加 。借入金は原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的 。
その他	+161	
投資CF	△14	
財務CF	△134	
長短借入金 の増減	△105	
配当金	△28	
その他	△2	
現預金の増減額	△186	

10

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 営業キャッシュフローは36億円のマイナスとなりました。棚卸資産の増加と営業債権の増加が主な要因です。
- 棚卸資産残高およびその増減の大部分は、貴金属リサイクル事業における原料、仕掛品、製品ですので、品質劣化リスクがなく、ヘッジによって価格変動リスクを回避しています。原料、仕掛品であっても製品化すれば、市場で現金化することができます。その意味では、経済的には現金に近い性質のものと考えられます。
- 営業債権は、主に北米事業でのメタル調達のための借入金見合いの債権であり、貸倒リスク、価格変動リスクがない、極めてローリスクな資産です。
- これらの安全資産の増加を除いた営業キャッシュフローは150億円を超えるプラスとなります。

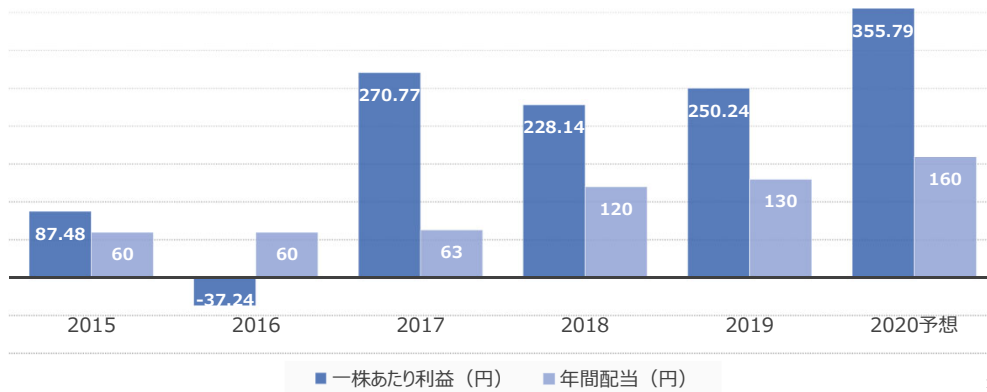
AW 配当

基本方針：配当性向50%以上をめどに安定的な配当を実施

2020年度：年間160円配当予想

※前年度の年間130円から30円の増配

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
一株あたり利益 (円)	87.48	△37.24	270.77	228.14	250.24	355.79
年間配当 (円)	60	60	63	120	130	160
配当性向 (%)	68.6	-	23.3	52.6	52.0	45.0



11

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度の配当は年間160円を予定しています。
- 安定した株主配当を継続して実現したいと考えています。

參考資料



会計方針の変更（2020年度決算より）

- 2020年度決算より、北米金融取引にかかるメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更。2019年度までは「金融費用」として計上していたが、2020年度より「売上原価」に計上する。（※比較係数となる2019年度の決算数値も会計方針変更後の数値に変更）
- 会計方針の変更により、北米金融取引の収益に対する費用が適切に対応し、営業利益がより実態を反映した数値となる。（上期の影響額は以下の通り）

（単位：億円）

	2019年度上期			2020年度上期		
	変更前	会計方針 変更 (金融費用 →売上原価)	変更後	変更前	会計方針 変更 (金融費用 →売上原価)	変更後
売上収益	610		610	791		791
売上原価	△497	△11	△508	△636	△5	△641
売上総利益	113		102	155		150
販管費他	△33		△33	△32		△32
営業利益	80		69	123		118
金融収益	0		0	1		1
金融費用	△12	+11	△1	△5	+5	△0
税引前利益	67		67	119		119
法人所得税	△26		△26	△36		△36
当期利益	45		45	82		82

13

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

貴金属事業の主な収益要素

貴金属リサイクル事業：

- 精錬手数料は固定的な安定収益。そこに収率差異による収益がプラス。

北米精錬事業：

- 精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

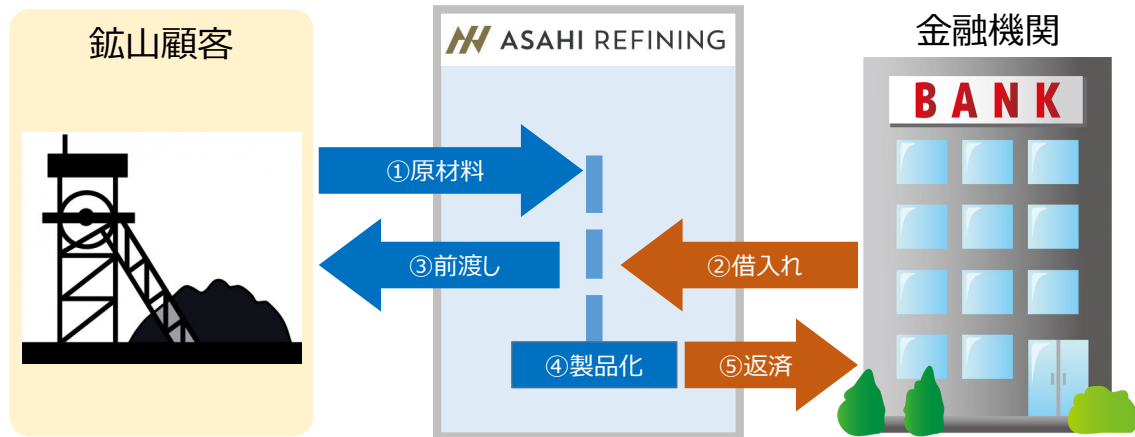
事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。 ■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。 ■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精錬原料（ドーレ）の入荷量が増えれば手数料は増加する。 ■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。
	収率差異（実収率と契約収率との差異＝フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。 ■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。 ■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。 ■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。 ■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。

14

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

AW 前渡し取引（北米金融サービスの代表例）

- 北米において、原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」金融サービスを提供。
- 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得るが、原則的に原材料を受領してから前渡しを行うため、リスクは抑止。



北米の金融サービスは精錬事業を土台にした安全な収益実現モデル

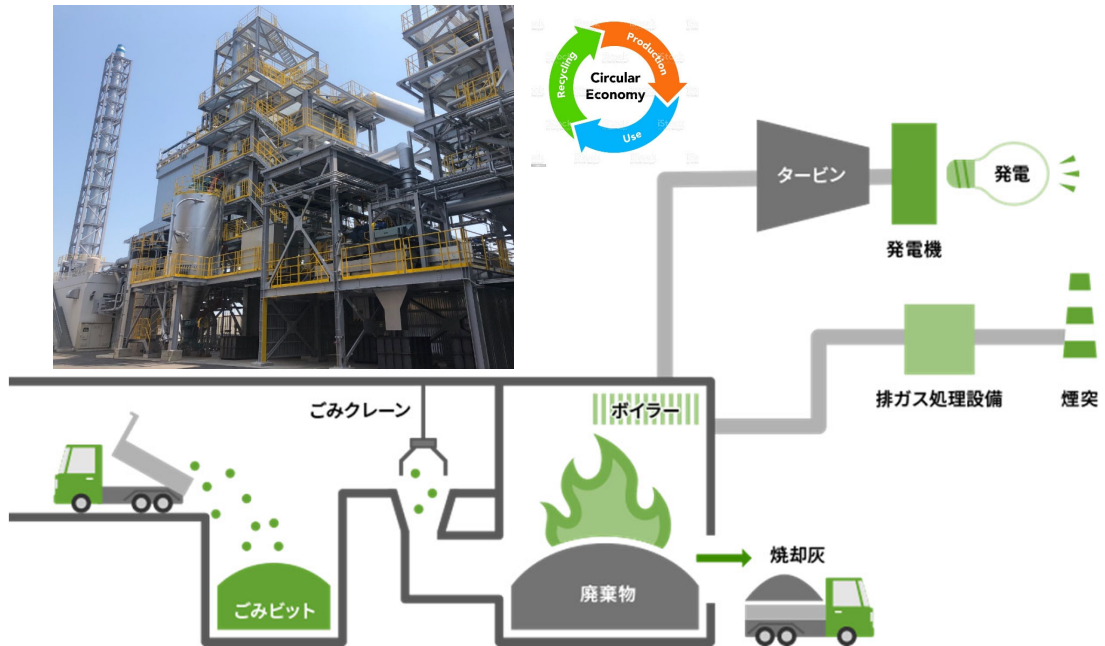
15

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



焼却炉更新・発電施設新設

- アサヒプリテック北九州工場の焼却炉（処理能力90 t / 日）を更新
- 廃棄物焼却時に発生する廃熱を利用した発電設備を導入し、サーマルリサイクルを通じて地球環境の保全とサーキュラーエコノミーの形成に貢献



16

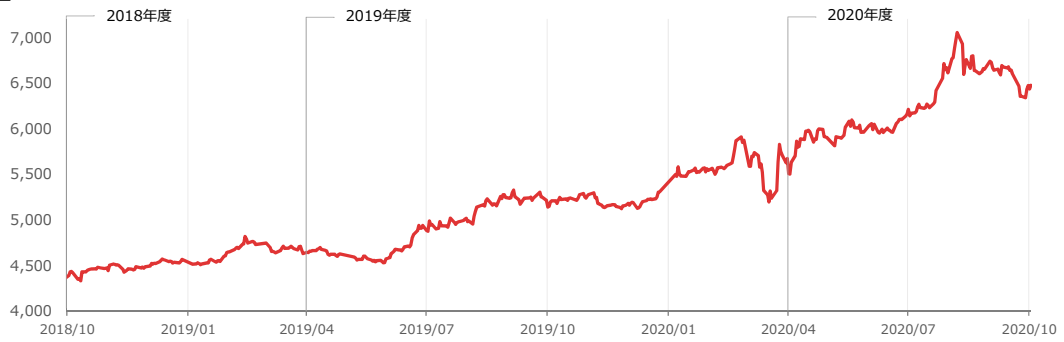
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



金属価格推移 [金・銀]

(単位：円/g)

金



銀



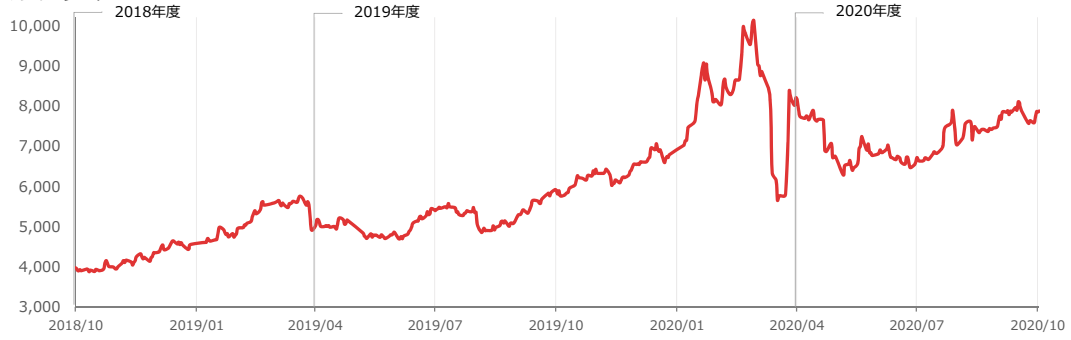
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



金属価格推移 [パラジウム・プラチナ]

(単位: 円/g)

パラジウム



プラチナ



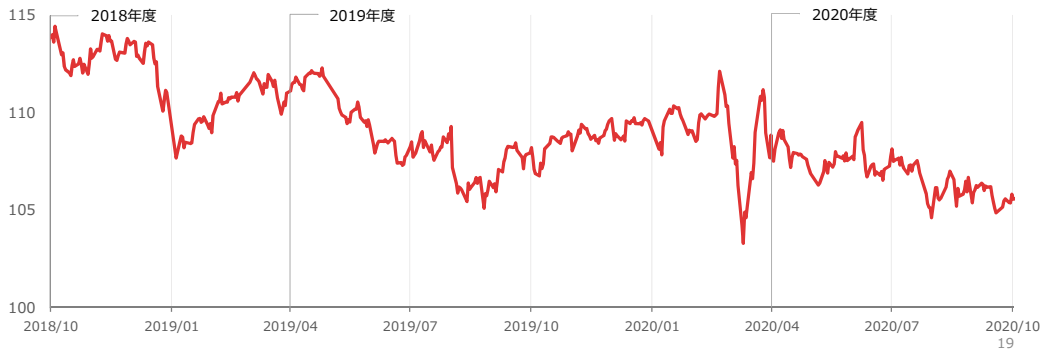
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

AW 価格推移 [金USD / Toz , ドル / 円]

金 USD / Toz



ドル / 円



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.